

【なせばなるツアー特別賞】 磯子区エコスタイル提案キャンペーン

磯子区新採用職員

1 新採用職員による取組

昼休み、お弁当を持って区政推進課の打ち合わせテーブルに集まってくる。当時磯子区に配属されたばかりの新採用職員の8人。ついこの間まで一般の市民であった私たちは、市民のみなさんの意識に届きやすい提案をするべく永井区長からこの省エネプロジェクトを任せられました。

「磯子エコスタイルの提案」は、横浜市の省エネキャンペーン「夏は夏らしく過ごそう2004」の呼びかけを受けた磯子区の取り組みとしてスタートしました。また、磯子区では平成16年度運営方針の中で、区の重要課題を庁内プロジェクト「I.C.A.N.いそプロジェクト」で横断的な取り組みを推進しており、当該プロジェクトはそのうちのひとつとしても位置づけられました。

プロジェクトメンバーは区政推進課、総務課、地域振興課、サービス課から出ており、事務職、技術職（土木・建築）、ケースワーカーと多岐にわたる職種で取り組みました。主に活動した期間は6月から8月でしたが、職員になって間もない私たちにとっては業務を一つ一つ覚えなくてはいけないときでもありませんでした。そのような中でメンバーの時間を合わせることは至難の業だったので、昼休みを利用しながら10回以上の会議をもちました。そこでは春に受けたばかりの新採用職員研修で毎

日のように実践したグループワークの経験をいかしながら検討や作業を進めました。7月までに提案をまとめ、その後プロジェクトメンバーは「エコ見守り隊」として、提案を広くPRしていくとともに、一人一人がそれぞれの業務や職場の中で省エネに対する意識をもつて過ごすということになりました。

2 「磯子エコスタイルの提案」の内容

(1) キャッチコピーとイメージキャラクターの決定

まずは、市民に呼びかけやすいようにキャッチコピーを決めることになりました。それぞれ案を持ち寄り、さらに庁内でも何人かに案をもらった上で検討を行いました。

区長との協議も経た結果、磯子区輩出のアーティストであるゆずの「夏色」という歌のタイトルをとった「冷やしすぎない夏色が好き。」というキャッチコピーが採用されました。

キャッチコピーとイメージキャラクター「いそりん」



エコの指標イメージ

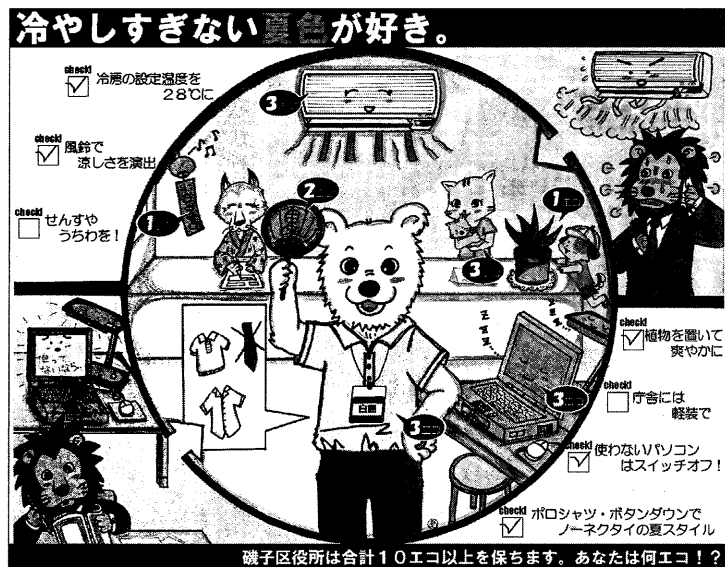
3エコ	冷房の設定温度を28℃にする
3エコ	ポロシャツやボタンダウンシャツでノーネクタイの爽やかな執務スタイルを工夫する
3エコ	使わないパソコンの電源を切る
3エコ	みなさんにも軽装で庁舎にいらっしゃるように呼びかける
2エコ	失礼にならない範囲で扇子や団扇を使い、暑さを和らげる
1エコ	植物や風鈴で夏の爽やかな環境づくりをする

また、キャンペーンのイメージキャラクターも作成しました。「いそりん」というキャラクターで、磯子の海の風を受けて涼やかに鳴る風鈴をイメージしてメンバーの一人がデザインし、皆で名前を考えました。

(2) 省エネ度の独自単位の発案

省エネのために効果的な方法はなく、小さな工夫を積み重ねるしかないという結論に達した私たちは、一つ一つに点数をつけて合計点で工夫の積み重ね具合をはかるということを考えました。そのために「エコ」という独自単位を設定し、小さな工夫の一つ一つに点数をつけながら例示していく、その合計点で省エ

磯子エコスタイル提案のPRポスター



ネ度をはかるといふことを考えました。例えば、「ノーネクタイの夏スタイル」が3エコ、「風鈴で涼しさを演出」が1エコというように設定しました。なお、磯子区役所では合計10エコ以上を目指すという努力目標を掲げました。

また、のぼり旗や横断幕などのキャンペーングッズのほか、本物の風鈴を仕入れてきて手足をつけるなどの加工を施した実物いそりんを庁内の窓口に飾り付けを行いました。これが一番手間のかかった作業で、会議室を借りてラインを組んで30個ほど製作し、設置する際は鳴りすぎて窓口業務の支障にならないように注意をはらいました。そのほかにも夏らしい植物であるほおずきを緑の協

会から借りてきて玄関ホールに置くなど、エコスタイルの提案をPRしながら、庁舎内でも聞いて涼しい、見て涼しい雰囲気を出しました。

窓口の風景



実物いそりん作成作業風景



実物いそりん



磯子エコスタイル提案の成果

(1) 猛暑にも関わらず、電気使用量を例年より5%削減することに成功しました。

(2) 神奈川新聞やタウン誌、またTVKの情報番組などにとりあげられ、市民に広くPRすることができました。また、区内の企業で組織する「磯子事業会」とも連携して、企業によるムーブメントへの参加も促進しました。

(3) プロジェクトとしてスタートしましたが、特別な予算措置はなく、ポスターや風鈴などを全て手作りで行いました。このことにより材料費や人件費などのコスト感覚を肌で感じることができました。

(4) 1年目の早い時期に、他課と調整をしたりチームで業務を行ったりすることで、仕事の進め方を実践的に身につけることができました。

(5) 本来業務以外にも常に「公」の視点で考えるいい経験になりました。

それほど大それたことが達成できたとは思えませんが、区長が私たちに任せられたのも、そのようなことを期待されたのではないかと思っています。今回の取組の中で、新人が何か新しいことに取り組もうとするのと、周りがそれをサポートする体制をつくってくれること、その両方がそろうことが必要なのだというところを感じました。私たちの取組を「おもしろい」と思って協力してくださった周りの上司や先輩方がいなければ、このプロジェクトは成立しなかったと思います。本当に感謝しています。

4 プロジェクトを終えて
私たちが採用された平成16年度の春、入庁式の中田市長のお話でとても印象に残っているものがあります。「あなた達には呼び水になってもらいたい。」新しい力で横浜市を活性化してほしい、というお話でした。今回のプロジェクトは、実際は

課